



枚方信用金庫の地方創生（巡リズム®）への取組み

信金中央金庫 地域・中小企業研究所上席調査役

とね かずゆき
刀禰 和之

（キーワード）地方創生、待機児童対策、近居・住替え促進事業、地域貢献活動、
子育て世代の流入促進、女性活躍支援

（視 点）

2018年のわが国の出生数は、91.8万人となり、過去最低を更新すると同時に3年連続で100万人を割った。2019年の出生数は90万人を下回ったとみられる。こうした状況下、地域金融機関である信用金庫は地方創生への取組みを通じた少子化対策・子育て世代の支援にも熱心である。

本稿で紹介する枚方信用金庫（本店：大阪府枚方市）は、包括連携協定を結ぶ枚方市からの要請を受ける形で2018年4月、旧岡本町研修所を保育事業者に実質無償で貸与した（ビルの管理費と固定資産税は保育事業者が負担）。同施策は、地域の待機児童問題の解消が目的であり、地域貢献活動としての取組みである。同金庫の施策は、「巡リズム®」が平成28年度地方創生に資する金融機関等の“特徴的な取組事例”に選定されたことに続き、『平成30年度 地方創生に資する金融機関等の“特徴的な取組事例”』に選定されるなど、今後の展開が期待される。

（要 旨）

- 2018年の出生数が3年連続で100万人を下回るなど、わが国は少子化が加速しており、人口の高齢化・減少が深刻化している。
- 地域金融機関である信用金庫は、地方創生への取組みを通じた少子化対策・子育て世代の支援にも熱心である。大阪府枚方市に本店を置く枚方信用金庫は、独自の地方創生施策「巡リズム®」を展開する。
- 同金庫は、本件について包括連携協定を結ぶ枚方市からの要請を受け、待機児童対策として実施した経緯がある。
- オープンした保育園は駅近の好立地などから定員は埋まっており、また利用者の評価も非常に高い。

はじめに

2018年のわが国の出生数は、91.8万人となり、過去最低を更新すると同時に3年連続で100万人を割った。2019年の出生数は90万人を下回ったとみられる。こうした状況下、地域金融機関である信用金庫は地方創生への取り組みを通じた少子化対策・子育て世代の支援にも熱心である。

本稿で紹介する枚方信用金庫（本店：大阪府枚方市）は、包括連携協定を結ぶ枚方市からの要請を受ける形で2018年4月、旧岡本町研修所を保育事業者に実質無償で貸与した（ビルの管理費と固定資産税は保育事業者が負担）。同施策は、地域の待機児童問題の解消が目的であり、地域貢献活動としての取り組みである。同金庫の施策は、「巡リズム®」が平成28年度地方創生に資する金融機関等の“特徴的な取組事例”に選定されたことに続き、『平成30年度 地方創生に資する金融機

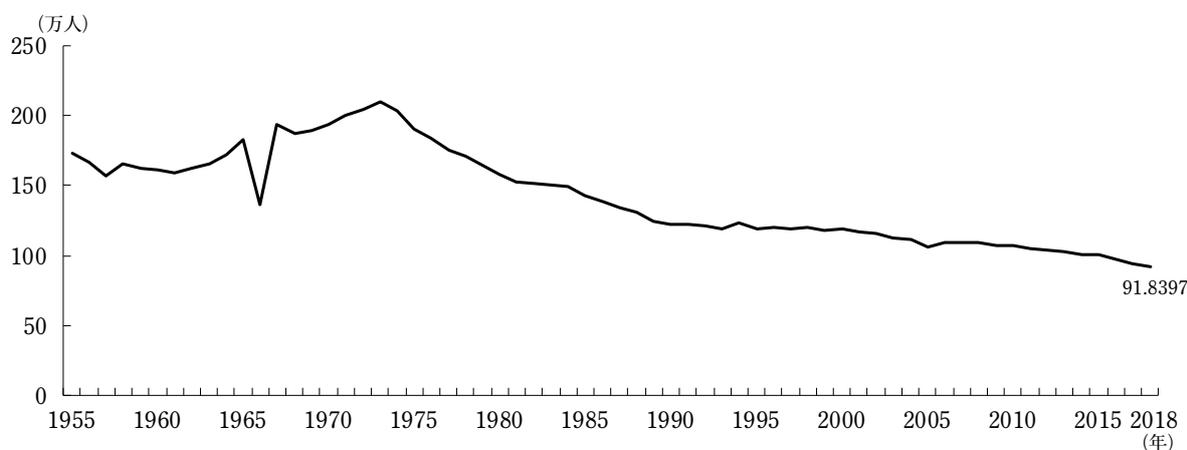
関等の“特徴的な取組事例”』に選定されるなど、今後の展開が期待される。

1. わが国の出生数の推移

わが国では急速な少子化と高齢化、それに伴う人口減少が深刻となっている。2018年の出生数は91万8,397人となり、前年から2.9%、2万7,668人減少した（図表1）。わが国の出生数は、2016年に100万人を割って以降、3年連続で前年を下回ると同時に過去最低（比較可能な1947年以降）を更新している。2019年についても、1～7月の人口動態統計速報は前年同月を下回って推移しており、年間を通じて90万人を下回ったとみられる。

足元では、「保育園・幼児教育無償化」など国を挙げた少子化対策が活発化しつつある。地域金融機関である信用金庫も地方創生の一環として少子化対策・子育て世代の支援に取り組んでいる。

図表1 出生数の推移



（備考）厚生労働省『平成30年（2018）人口動態統計月報年計（概数）の結果』より信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 枚方信用金庫の「近居・住替え促進事業“巡リズム®”」の概要

本稿では、大阪府枚方市に本店を置く枚方信用金庫の地方創生策「近居・住替え促進事業“巡リズム®”」を取り上げる（図表2）。

図表2 枚方信用金庫の概要

信用金庫名	枚方信用金庫
本店所在地	大阪府枚方市
創立	1950（昭和25）年8月
預金残高	3,813億円
貸出金残高	1,769億円
店舗数	20店舗
常勤役員数	316人

（備考）2019年3月末

(1) 問題意識

枚方信用金庫が本店を構える枚方市は、大阪府北河内地域に位置する人口40万人の中核都市である。高度成長期には大阪市のベッドタウンとして発展したものの、2009年をピークに人口が減少方向にある。

2013年に同金庫理事長に就任した吉野理事長は、信用金庫を含む地域金融機関の経営環境悪化の主因は急速に進む少子高齢化・人口減少だと考えた。日本銀行による「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」（マイナス金利政策）の動向に関わらず、信用金庫が地域に良質な金融サービスを提供し続けるには、既存のボリューム主義型のビジネスモデルを転換する必要があると考え、独自の地方創生策「近居・住替え促進事業“巡リズム®”」を

展開するに至った。

(2) 「巡リズム®」の考え方

同金庫の営業エリアである北河内7市^(注1)は、高度成長期に発展した大阪のベッドタウンであり、近年は急速な高齢化が進んでいる。高齢者単身世帯の増加が地域の主要課題の一つとなっていた。

こうしたなか同金庫は、高齢世代が住みにくくなった住宅や空き家になった住宅を売却したり、リノベーションして子育て世代に賃貸したりすることで、高齢者が安心して暮らせる高齢者向け住宅に移り住むことを支援することにした。同時に子育て世代の地域への移住促進に取り組むことで人の好循環「巡リズム®」（巡り住む）を目指す（図表3）。同金庫は「巡リズム®」の活動において、お客様のお困り事を解決していくなかで、融資の実行や手数料の獲得を図っていく。「巡リズム®」は、個人の住まい、暮らしを応援する施策であり、地方創生の活動と位置付けられる。

「巡リズム®」を普及させるため、同金庫は枚方市などの7市、地元の鉄道会社、医療機関、ハウスメーカーなどと連携し地域を挙げた活動を展開している（図表4）。

「巡リズム®」の考え方は、従来のボリューム主義・拡大主義的なビジネスモデルからの転換であり、役職員への周知に時間を要した。理事長が繰り返し「巡リズム®」の考え方の重要性などを説いた結果、現在では金庫内に周知・徹底されている。

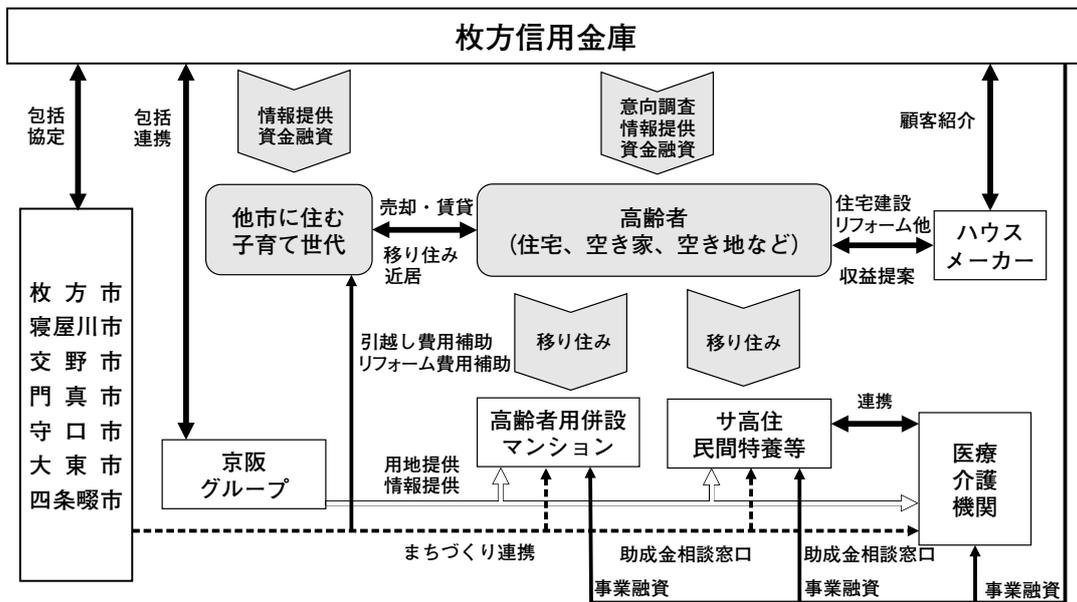
(注)1. 枚方市、守口市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市

図表3 「巡リズム®」の取組内容

- 高齢者世代が、枚方市内の高齢者専用住居（サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホーム等）に移り住み、所有している住宅は、「売却、賃貸、解体」などして子育て世代の移住促進を図る。（近居および住み替え促進事業）
- 枚方市等7市と包括協定を締結し連携して、官と民がネットワークを組む事業モデルとし、高齢者が気軽に相談できる体制をつくり、相談者個々の実情に合わせた最善の解決策を提案することで「空き家」を発生させない取組みとする。
- このスキームは、多世代が共存する持続可能なまちを“人の巡り住む”により創造するものであり、枚方信用金庫が、子育て世代の近居・移住につながるよう、資金支援及び情報提供を行い子育て環境の改善に貢献する。

（備考）図表3・4ともに枚方信用金庫資料より信金中央金庫 地域・中小企業研究作成

図表4 「巡リズム®」のスキーム図



3. めぐみ会「常称寺枚方駅前保育園」の入居について

(1) 経緯

同金庫は、枚方市において深刻化する待機児童問題の解消への一助となるよう、2018年4月、旧岡本町研修所を保育事業者に貸与した。

枚方市の待機児童数は2017年2月時点で

170人おり、加えて相当数の隠れ待機児童もいると考えられた。一般に「待機児童が多い地域」＝「子育てに向かない地域」とのイメージが強く、若い子育て世代が住むことを敬遠する傾向がみられる。地域の少子化対策・子育て世代の支援に取り組む同金庫は、地方創生・巡リズム®の立場からも積極的な支援のあり方を検討していた。

こうしたなか、包括連携協定を結ぶ枚方市

より同金庫の岡本町研修所（当時）を保育事業者が運営する小規模保育事業として活用したいとの要請があった。働く子育て世代の希望する保育園は自宅と職場の動線上にある駅などである。同金庫の岡本町研修所は、枚方市駅から直結する商業ビルの1階にあり、大手スーパーのイオンも併設されている。そのため大阪市内で働く世帯には、出勤時に子供を預け、帰宅時に子供を迎えられ、さらにスーパーマーケットで買い物ができる好立地であった。

同金庫は、「中小・地域金融機関向けの総合的な監督指針」に照らし、『国や地方自治体のほか、地域のニーズや実情等を踏まえた公共的な役割を有していると考えられる主体からの要請であり』、『地域活性化や地方創生に資する施策』に該当すると認められ、また「巡リズム®」の取組みにも合致することから、地域貢献活動として枚方市の要請に応えることにした。

(2) めぐみ会「常称寺枚方駅前保育園」の概要

① 運営

2018年4月にオープンしためぐみ会「常称寺枚方駅前保育園」は、社会福祉法人めぐみ会が運営する小規模保育事業所である（図表5、6）。同保育園の定員は19人で、1歳児9人、2歳児10人を受け入れる。

なお、園児の保育料などの引落とし口座は同金庫を指定している。

図表5 保育園の外観



（備考）信金中央金庫 地域・中小企業研究所撮影

図表6 保育園の概要

運営	社会福祉法人 めぐみ会
名称	めぐみ会「常称寺枚方駅前保育園」
分類	小規模保育事業
所在地	大阪府枚方市岡本町7番1号 枚方市駅直結ビル (ピオルネ北館1階)
定員	19人 (1歳児9人、2歳児10人)
費用	改装費は、めぐみ会が負担 管理費および固定資産税は、めぐみ会が負担
その他	同金庫の店外ATMあり

（備考）ヒアリングより信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

② レイアウト

同保育園の所在地は、同金庫の旧岡本町研修所であり、枚方市駅から直結する商業ビルの1階に入居する。岡本町研修所に併設された店外ATMは継続して設置している。ただしセキュリティ確保の観点から、ATMコーナーと保育園とは区切っている。

③ 費用等

同保育園のオープンに向けたリニューアル工事は、めぐみ会が厚生労働省の保育所

等整備交付金などの補助金・助成金を活用して行った。具体的には、同研修所内に固定されていたカウンターの撤去、トイレや水回りの整備・拡充などである。

同金庫は地域貢献活動としてめぐみ会に対し実質無償で貸与しており、めぐみ会は同保育園の運営にあたって、ビルの管理費および固定資産税を負担している。

4. 今後の展開

(1) 1年半経過後の評価

オープンから1年半が経過した。めぐみ会「常称寺枚方駅前保育園」は、駅近の好立地なこともあり、働く子育て世代の人気は高く、利用者も満員状態である。

同金庫では少子化対策・子育て世代の支援に資する施策だと評価する。地域活性化および地方創生に繋がることを期待している。

(2) 特徴的な取組事例に選定

同金庫の取組みは、内閣官房まち・ひと・

しごと創生本部から『平成30年度 地方創生に資する金融機関等の“特徴的な取組事例”』に選定され、内閣府特命大臣（地方創生担当）の表彰を受けた^(注2)。

(3) 今後の計画など

同金庫は今後も「巡リズム®」の考えを押し進め、地方創生や地域活性化に取り組んでいく考えである。少子化対策・子育て世代の支援分野では、駅前などの好立地店舗の建替え時に保育園などの併設を検討する。また、既存店舗において時間預かりなどの実施の可能性を検討していきたい。

おわりに

近年、多くの信用金庫が若年層取引に力を入れ、専用商品・サービスの提供などに取り組んでいる。今回紹介した枚方信用金庫の施策は、地方創生や地域活性化といった側面と同時に、20代～30代の働く子育て世代および女性活躍支援へのアプローチとなり得よう。

〈参考文献等〉

- ・厚生労働省『平成30年（2018）人口動態統計月報年計（概数）の結果』
- ・厚生労働省『人口動態統計速報』（毎月）
- ・内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局『平成30年度 地方創生に資する金融機関等の“特徴的な取組事例”』

(注)2. 同金庫は2016年度にも選定されており、2度目となる。